

## 富士吉田の二つのまち オーディオドラマ

### ① 富士山駅

百合 ナレーション「私は百合。大学三年生。今日は、友達の桜ちゃんの帰省について行くことになり、初めての富士吉田に向かっていきます。」

桜「富士山駅、着いたー！」

百合「さむい…東京はまだまだ暑いのに」

桜「言ったじゃん、富士吉田の九月はもう長袖が必要なの！」

百合「だから桜ちゃん、秋服着てきたのか」

桜「ほら、上着、出して出して。半袖じゃ風邪ひいちゃうよ？」

百合「は〜い」

百合、上着を羽織って

桜「あー、残念。富士山今日は隠れちゃってるね」

百合「本当はここから見えるんだ…」

少し落ち込んでいる百合を気にして

桜「…ねえ！ちょっとさ、歩かない？」

百合「歩く？」

桜「この地図見て！これ、富士山が上に描かれた、富士吉田の地図なの」

百合「そんなのがあるんだ!？」

桜「そう！上と下で二つのまちに分けられるんだ。富士山信仰の中心である上吉田と、機織りの商人文化のまちである下吉田。全然違う空気を味わえるの！」

百合「なるほど！」

桜「今日は特に予定ないし、富士吉田市内をお散歩しようよ！」

百合「楽しそう！」

桜「実は色々歴史があるんだー。教えてあげる！」

② 上吉田

—— 金鳥居 ——

桜「あれが金鳥居（かなどりい）！」

百合「わ！街中にこんな大きな鳥居が！」

桜「富士吉田のシンボルなの！このあたりからが、上吉田だよ」

百合「なんか、あっちの方は少し違う雰囲気だね」

桜「そうなの。ちよつと、坂道登ってみよつか」

百合「ねえ、この石柱はなに？」

桜「あつ、気づいた？これは、御師（おし）の家っていう目印なの」

百合「御師？」

桜「御師っていうのは、江戸時代に、信仰のために登山する人を家に泊めて、登山の準備をしたり、ご飯をつくったりしてた人たちのことだよ」

百合「信仰のための登山を、支えてた存在ってこと？」

桜「そうそう！お祈りをしたり、礼儀を教えたりもしてたみたい。御師はこの通り沿いに住んでいて、んー、一番多い時は、80軒以上あったんだって」

百合「そんなに！富士山信仰ってすごく盛んだったんだね」

百合ナレーション「富士山信仰の歴史を知り、歩いてきた来た道を振り返ると、神聖な空気を感じました。そして、私たちは次に、下吉田にある、東裏というまちに向かいました」

③ 下吉田・東裏／絹屋町

桜「ここが東裏。絹屋町（きぬやまち）って行って、織物の問屋がたくさんあった通りなんだ」

百合「レトロな感じの街並みだね」

桜「でしょ？当時の建物も残ってるんだよ。下吉田は商人のまち。織物が売られて、人が行き交う、にぎやかな文化が根付いてたんだ」

百合「静かで落ち着くー」

④ 夜・西裏

桜「ここが西裏というまち。全国から集まった商人は、昼は東裏で取引をして、夜は歓楽街であるここ、西裏で楽しんだと言われているの」

百合「なんかネオンとかもあって、他とは違った活気があるね」

桜「昔のお店の看板とか、不思議な雰囲気だよね」

百合「うん」

桜「よし、ついた！ここが私のおすすめのお店！パーっと飲もう！」

—— 居酒屋 ——

二人「かんぱい！」

桜「あー疲れたー！」

百合「ほんとに！たくさん歩いたもんね！でもそのおかげで、神聖で静かな上吉田も、風情ある街並みの下吉田も、全部違って楽しかった！」

桜「えー！よかったあ！」

百合「もっといろんな場所行きたい！」

桜「じゃあ、明日も楽しみにしてて！」

百合「期待してるよー！」

二人で笑い合って

百合ナレーション「富士山が見えなくても、この街にはいろんな顔がある。富士吉田の二つのまちをお散歩して、そう感じられた一日でした」